

～ 障害者と共に歩む仲間たち～

NPO法人「じゃがいものうち」

〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間136-6

Tel.Fax/0997-47-3588 E-mail/npo-jaga@po.minc.ne.jp

URL:http://www.minc.ne.jp/npo-jaga 代表 松田 正

小規模多機能とは

小規模多機能とは簡単に言ってしまうと「昔の大家族のようなもの」というのが一番わかりやすいのかも知れません。一昔前じいちゃんやばあちゃんと孫たちが一緒に暮らしていた頃は、年をとってもそれぞれにいろんな役割がありました。それが高度経済成長と共に核家族化が進み、高齢者だけの家族が増えてきました。さらに状況が進み高齢者に手助けが必要になると、かつては近くにいた家族の手も今はなく、社会にその役割が求められるようになってきました。いわゆる介護の社会化という現象です。そんな中生まれたのが介護保険制度。それも6年目に入り、制度化された一つの形が小規模多機能です。



高い経済効果を求める新自由主義の台頭が、特別養護老人ホームなどの施設介護に比べて、数分の一の経費で済む居宅介護（小規模多機能もその一つ）に重点が移り、ノーマリゼーションの理念でもある「最後まで生き生きと、その人らしく暮らせる方法」としての小規模多機能がこれからの方向に間違いはないと思います。

じゃがいものうちでは、利用者が望む生き方をサポートする方法として小規模多機能の開所をめざしています。その手始めとして、今年度中にデイサービスをはじめたいと思っています。それには施設整備にも経費がかかり、今のじゃがいものうちの力だけでは不可能です。また運営面でも、特に介護保険の制度にのせられるまでは、採算のとれないことは目に見えています。しかしながら近い将来必ず必要になる地域の資源として開設をしたいと思っています。具体的な計画ができあがりましたら改めてお知らせをいたしますので、その節は力強いご協力をお願いしたいと思っています。

（松田）

小規模多機能準備室より

昨年9月の立ち上げから8回の会を重ねてきました。その結果下記のことを理事会に提案し、了承を得ました。

場所・・・拠点となりの“まつばんだ”を賃借、改装

週一回・・・木曜(or日曜)

スタッフ・・・太田（準備室メンバー）

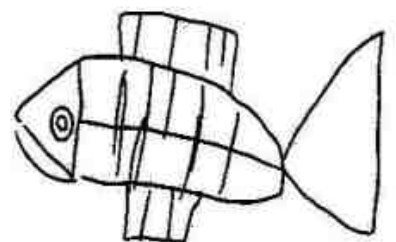
責任者・・・松田

（その他詳細については「じゃがいものうち」のカウンターに設置の準備室ニュースをごらん頂くか、喫茶までご請求下さい。）

現在、資金面、ハード面の検討を重ねています。基本姿勢として、07年度中の開始を目標にして、多くの利用者の意見をお聞きしながら、内容の具体的な計画を立てたい。そして8月に臨時総会を開きたいと考えています。

（松田）

利枝子さん作



2007年5月27日(日)尾之間管理センターにおいて、総会が開催されました。

5月27日現在、一般会員68名中出席者23名、委任状16名で総会は成立し、開会挨拶、議事録署名人選出、議長選出後、議案の審議にはいりました。右記のすべての案件は承認され、新たな活動へのスタートが切られました。

第1号議案	2006年度活動報告
	2006年度会計報告
	2006年度会計監査報告
第2号議案	役員改選(監事)
第3号議案	2007年度事業計画案
	2007年度予算案

その他午後は「お楽しみ会」を催し、午後4時終了しました。

『おおぼらかい』より町議会傍聴記

町議選たけなわの4月、おおぼらかいで議会傍聴をしようと話が持ち上がりました。これはおおぼらで終わらせないよう、時間・関心のある人で、声をかけあって行こうということになりました。5月2日臨時議会(午前4人) 6月19日本会議2日目一般質問(午前7人・午後4人) 22日本会議5日目(1人)を傍聴しました。

私は5月2日と6月19日に傍聴しました。19日の感想を書かせて頂きます。10月の合併を控え、現在町がかかえている問題、合併後の展望等身近な問題の質疑応答がありました。福祉関係(特別支援教育・障害児者本土並み対策・高齢者生きがい創出・子育て支援)も取り上げられていました。

私たちも中央公民館一階洋式トイレの不備、二階

女性用トイレの不備、役場前通りの街灯が歩道中央付近にあり特に視覚障害者・車いす利用者にとって危険なこと等議会で取り上げてもらうようにしたいねと話したことでした。私たちが町政を託した議員さんや町長さんを前にして、誰もが生きやすい町をめざして、高齢・障害当事者として気づいたこと等、声を上げていかなければと思いました。

最後に、傍聴席に上がる階段に手すりがなく、『傍聴人心得』には、杖(人に危害を加えるおそれのある物)を持った人も傍聴席に入ることができないとありました(実際は持って入れました)。女性用トイレは、給湯室の奥にあるのみでした。まだまだ女性・高齢者・障害者に対する配慮が足りないことに気づいた議会の傍聴でした。(松田咲美)

祭りだワッショイ! ワッショイ! はっぴを作ろう

まもなく梅雨があがると7月28日は尾之間温泉祭りでの出店です。イベントに出店の度にジャガコロの揚がるのを待つ列の向こうで、テントのあちこちで汗だくになりながら生き活きと働く仲間達の姿を見るたびに「いつか揃いのハッピーの作務衣がつくられたらいいな」と思い描いた情景に申し合わせたように木綿の生地がやってまいりました。

自分のハッピーを縫った方から順々に着て頂ければ嬉しいです。只今大、中、小、のサンプルを縫いはじめています、忙しい方は家に持ちかえられて縫うもよし、「じゃがいものうち」にミシンが鎮座しているので縫うもよし、作り方を覚えながら縫うもよし、下記の日時、「じゃがいものうち」におりますのでおいで下さいね。ほとんど直線縫いで楽に縫えるよう型紙つくりました。

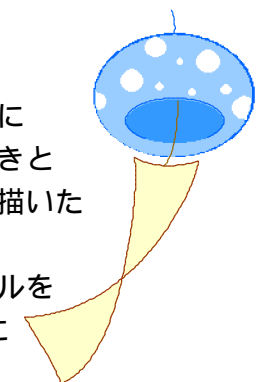
自分自身に備わる潜在能力を活かし、楽しさを広げ豊かになりましょう。

日時 7月 3日、4日、6日、PM1時~

場所 じゃがいものうち

道具 裁縫道具(物サシ、ハサミ、針、まち針、糸、色エンピツ又はチャコペン)

持参出来る方は、ミシン。



(発信 大原貞子)

【べてるの家】にいつてきました。

4月に北海道の襟裳岬に近い浦河町にある【べてるの家】という所へ2週間程見学に行ってきました。

べてる を知ったのは4年前友人から借りた一冊の本でした。もともと対人緊張が強く、人の中にいるのが苦手な私ですが、その頃も人に会うのが怖くて家に閉じこもりがちでした。本の題名は『悩む力』。精神障害を持つ人々が、自分の弱さや悩みを仲間に伝える事で、自分を受け入れ、仲間と共に生きる力を取り戻していく様子や、 べてる に関わる様々な人々が自分の弱さに気づきつつ、 べてる の人々と共に悩みながら歩んできた様子が生き活きと描かれた本でした。

4年越しの夢がかない、たった2週間ですが『とにかく何でも身体で感じて来よう。』『会いたい人に会ってこよう』と思いました。

私が、拠点にしていたのは「ニューべてる」という小規模授産施設でした。毎朝20～30名近くのメンバーが集まり、順番に今日の気分、体調、良かったこと、苦労していること、何時まで働けるかを云っていきます。周りで忙しく仕事をしているスタッフも用事をしながら参加していました。こうしたミーティングは べてる の他の仕事場や共同住居などでも日常的に開かれます。また、 べてる には理念がたくさんあるのですが、「いつでもどこでもミーティング」とか「3度の飯よりミーティング」「手を動かすより口を動かせ」など(他にもまだまだありますが)、語ることを何より大切にする文化がどこに行ってもありました。その中で、メンバーは互いを認め合い、語る力をつけていくのです。

べてる で暮らす当事者は本当に普通の人達でした。人間臭くて、不器用すぎるくらい不器用で、身勝手なのに、一緒にいるとなぜだかあったかい。障害と、その「人」とは別なんだという思いが自然

～今の私、これからの私～

にわいてきました。

弱さを語れる場の空気がその人らしさを引き出し、仲間と共に生きようとする力を生み出す。その場にいると私自身が開かれていき、いつまでもその人達の中にいたい気分になりました。「私もずっとそういう場所を求めて求めてきたんだなあ」と思いました。

べてる では安心して話ができる場がどこにでもあったのに屋久島ではなかなか見つからない。そのうちに、私の心にはまた元のように壁ができつつありました。でも、ふと見ると壁の中に扉が一つあることに気づきました。その扉は、相手に心模様(弱さを含む)を伝えると開き、安心してそのままの自分でいられることが分かりました。これからも私は自分の心模様を伝えることが人とつながるための大切な方法として、何度でも試していこうと思っています。

私にできる事は、毎日の生活の中で身体を通して得た物を実践していく事だと思いました。

べてる もそうした一人一人の作用の30年という歴史の中で育まれてきた場だと思うからです。

私がここに居てやれることは一匹のミミズになり、迷いつつ、いろんなミミズと出会い、共に作用し合いながら誰もがその人らしく、のびのび暮らせるような土壌を育てていくことです。(金子ゆかり)

【べてるの家】とは、30年程前、浦河日赤病院に勤務していた向谷地生良 むかいやちいくよしさんというソーシャルワーカーが、精神科を退院した2～3名の回復者と古い教会堂に寝泊まりしながら昆布作業をしたのが始まり。2002年、社会福祉法人となり現在100名を越す様々な障害を持った当事者のための多種多様な事業を展開している。

《本の紹介》

「悩む力～べてるの家の人びと」

斉藤道雄著 みすず書房

「べてるの家の非援助論」

浦河べてるの家著 医学書院

「べてるの家はいつもばびば」

すずきゆうこ著

「安心して絶望できる人生」

向谷地生良著 NHK出版

「べてるの家の当事者研究」

浦河べてるの家著 医学書院



プルトップを集めよう！

屋久島高校ボランティアクラブのメンバーより渡されたプルトップがキャリー約3個分あります。今年も引き続きプルトップ集めを活動の一つにしているそうです。車椅子1台に必要なプルトップの数はドラム缶約1個分と言われています。さあ！私達も集めましょう！「じゃがいものうち」は2009年には小規模多機能の事業を開始します。そのときには車椅子は必ず必要になります。皆さまの少しの心掛けが集まれば驚くほどの力になります。ちまたに見かける空き缶を見たらキコキコ、プッチン、さりげなく集めましょう。

プルトップ回収箱が「じゃがいものうち」にあります。よろしくお願い致します。（楯）

行事報告

産業祭

4月29日（日）屋久町屋根付きゲートボール場にて屋久町としては最後となる産業祭が開催されました。晴れわたる青空に恵まれ多くの参加者でにぎわいました。出店数も多く、1年間作り貯めた作品を発表する場でもあり、地産地消発掘の場でもあり、売る側も買う側も輝いているひと時でした。その中でもひととき賑わいを見せていたのが、「ひろがれ屋久島福祉の輪」の横断幕の下で長い行列を作っていたのがジャガコロ、綿菓子、育成会のうどんコーナーの売り場でした。テントの下で「ジャガコロはいかがですかー！」と明るい呼び声に伝わるようにそれぞれの受け持ちを一生懸命働く姿が印象的でした。産業祭の出店に「じゃがいものうち」はもはや欠かせぬ定番の地位にあります、皆さまのそのひたむきな活動はきっと実を結び屋久島の障害者福祉の向上につながってくることと信じます。本当にご苦労さまでした。（楯）



総売上：156,940円

（喫茶 13,000円、綿菓子 27,100円、じゃがころ 80,400円、リサイクル品 36,440円）

行事予定

尾之間温泉祭

日時 7月28日（土）管理センター

出店品目 じゃがころ、タンカンジュース、綿菓子、かき氷、お茶

担当 楯

具体的な作業は、じゃがころの皮むきに相当な手がかかるために7月28日（土）当日の午後1時より行います。いつもの様に、包丁・まな板を持参して下さい。

尚、出店準備は午後5時から始まります。出店担当者は清潔な服装、三角巾又はスカーフとエプロンや今回作ったはっぴを持参してください。

キャンプ

日時 8月25日（土）・26日（日）

場所 栗生 屋久島青少年旅行村
詳しい事は、後日連絡します。



喫茶コーナー



僕は、毎週土曜日に喫茶のお手伝いをしている高見澤信裕です。
『じゃがいものうち』の喫茶には、去年の9月から通っているの、
もう9ヶ月になります。今は、ほとんどバスで一人で通っているよ。
僕は、屋久島で一人でバスに乗ったことが無かったから、とっても緊張するし、
なんだか運転手さんがこわくてね、一人でバスに乗って通うのが、とてもイヤだったんだ。だから、その
ことでパパとケンカもしたんだ。だけど、『じゃがいものうち』や松田さんの所へ通うたび、送り迎えを
してもらうのは、パパに悪いと思ったから、思い切って一人でバスにのったんだ。そうしたら、初めて乗っ
たバスの運転手さんが、とっても優しくって、次からは安心して乗れるなって思ったんだ。今は、もう一人
でバスに乗る事にも慣れたよ。喫茶の仕事も、初めのうちは、何をしたらいいのか分からずに、とても迷い
ました。緊張して、お客さんに挨拶をすることも出来なかったんだ。特に、観光客や知らない人が来ると「こ
わい」と感じた。だけど、今はもう大丈夫だよ。挨拶もできるし、何をしたらいいのか、どんな話をしたら
いいのか、どんなお客さんが来るのかが、もう分かったからね。四宮さんは目がわるいので、病院まで肩を
貸してあげるよ。尾之間に住んでいるMさんやTさんは、お話しをするのが大好きなんだ。山口さんもよく
来てくれるからうれしい。だけど、無口なお客さんは、ちょっとまだ苦手だな...どう対応したらいいのか
分からないんだ。でも、そういうお客さんにもだいが合わせられる様になったよ。掃除もしたり、たんかん
ジュース、ウコン、ガジュツの箱詰めの手伝いもするし、佐川急便さんが来たとき、荷物を運んだりもする。
これからは、電話の対応がしたいから、練習しなくっちゃ。それに、土曜日はお客さんが少ないから、もっ
と呼び込みしなくちゃね。僕は、もっとたくさんのお客さんに来てもらって、この『じゃがいものうち』
がどんなところだか、分かってもらいたいんだ。それに、お店が暇な時、僕は何をしたらいいのか分から
ない！ だから、皆さん、もっと喫茶に遊びに来てね！特に土曜日に！ (聞き手 鈴木 裕子)

喫茶担当の畑下さんが8月末まで娘さんの出産のため、お休みになります。その間のピンチヒッターとし
て金子ゆかりさんが入られます。

「みなさんに教えてもらいながら一生懸命頑張ります。ふつつかものですが、よろしくお願い致します。」
(金子ゆかり)

商品紹介

6月に新しく委託販売品が入りましたのであわせてご紹介致します。

new商品「島ひと昔語り」 文：古居智子、絵：黒飛淳

島と人、自然と暮らし、みんなひとつに溶け合っていた。その頃の記憶をしっかりと持っている屋久
島種子島在住の語りべの方々からお聞きした昔話を一冊にまとめてあります。

new商品 EMぼかし(生ゴミ用)

これからの季節、生ゴミの悪臭に悩まされます。EMぼかしをひとふり、悪臭軽減、又堆肥作りにも。

- 1 リットルペットボトル入り 200円
- 1.5リットルペットボトル入り 250円
- 2kg袋入り 350円

シーズン到来！夏にはたんかんジュース！

グイッと一杯！さわやかサマー！ 一本800円 500ml

屋久島は「薬島」春うこん、秋うこん、ガジュツがあなたを癒す！

各一袋500円 100g

ただいま絶賛発売中！（数に限りがあります。お早めにご注文下さい。）

地方発送いたします。（送料、振込手数料はお客様負担です）

会員の更新、新規加入ありがとうございました

(50音順 敬称略 6月25日現在)

いつも温かいご支援ありがとうございます。お陰様で私達の活動の原動力となっております。これからもよろしくお願い致します。

一般会員 石田尾拓夫 井原広悦 得平悦子 大原貞子 小笠原勝弘 小笠原のぞみ 小川裕子
梶勝子 鹿島浩二 金子英一・ゆかり 木下忍 木原裕子 桑山善右衛門・道子 鮫島光子 四宮英代・
岸楨子 柴堯子 柴田矢恵 鈴木捷二郎 鈴木義之・裕子 須原光伸 高田勝子 高見澤義男・信裕
高山宏子 立花敬麗・幸江 楯篤雄・陽子・水生輪 谷本正和 寺田和子 中井喜恵子
永綱敏文・光代 沼田澄江 畑下辰治・和子 羽田順子 日高イツ・利枝子 日高典子 古屋浩三・芳子
星野京 松田正・咲美 松本活栄 三井ユキエ 蓑田理子 峰平耕典 村上潤子 山田圭一・由紀子
脇田武志 渡辺一夫・まみよ
賛助会員 荒田詣子 飯田和巳 飯塚伸子 稲場輝雄 井上正勝 岩川絹子 岩川ミヤ 大久保芙美子
岡村和子 加藤章 川上雄治 川崎君子 斉藤恵 清水明美 武田延子 田中和彦 田中洋 戸床マサ子
西森利江 日高健 平田一夫 福嶋禮子 藤井恵美子 堀内静子 松本裕子 持原道子 山尾春美
山口康文 吉田克雄・照子 若松京子
団体会員 屋久町手をつなぐ育成会 木まま工房 泊書店 屋久島ガス

記載漏れがありましたらご一報下さい。

新会員紹介

～みなさん、これからよろしく！～

須原光伸さん(船行) 立花敬麗さん(尾之間)
三井ユキエさん(小瀬田) 蓑田理子さん(鹿児島市)
井上正勝さん(原) 岩川絹子さん(小島)
岩川ミヤさん(尾之間) 田中和彦さん(原)
戸床マサ子さん(尾之間) 日高健さん(楠川)
平田一夫さん(尾之間) 吉田照子さん(尾之間)

感謝録

(3月31日～6月19日 順不同 敬称略)

井上正勝 鈴木裕子 松本活栄 日高ヨリ
神野建設 川崎君子 飯田かおる 井坪美紀
日高典子 鈴木義之 平瀬恵子 太田久美
日高秀美 日高弘子 高瀬よし子 金森マズミ
笹川知美子 福島史子 有川洋子 山田玲子
古里美樹子 古屋浩三 須原光伸 高見澤義男
山本はるか 松田正 柄沢牧子 他匿名4名

本の紹介

福祉とは直接関わりありませんが、是非とも紹介しておきたい本があります。会員としてずっと会を支えて下さっている高田勝子さんのご主人、高田久夫さんの『屋久島の山守 千年の仕事』(草思社)です。屋久島への愛、7代先を考えるというアメリカ先住民と同じ！感動しました。(松田)

編集後記

梅雨本番！不快指数100%。しかし「この不快感を耐える事によって、夏の暑さを乗り越えられる」と、ポジティブに考えていきましょう。

今年度は年4回の発行を計画しています。急ぎの連絡はミニ通信で知らせることにしました。いろんな意見、皆さんより頂きたいと思っています。原稿依頼も致しますのでよろしく御願い致します。

(楯)